

職員による自己評価

A環境面

2階に事業所があり、周辺の住人に配慮が必要。
外と内でグループ分けをする。

B児童への支援内容

毎月、常勤・非常勤職員が集まり活動予定を決めています。

室内活動が似てしまう。

外出先は休日・祭日に行っている。

C関係機関との連携

区内の放課後等デイサービス同士での定期的な集まりに参加している。

D保護者への説明責任・信頼関係

意見に対し、苦情・ヒヤリハット・事故報告書に分けて出し保護者への謝罪並びに再発防止の対応を報告。職員間に連絡している。

保護者から家庭状況も含めて、児童対応についての相談に対し、適宜送迎順番の変更や相談支援専門員を紹介している。

E非常対応

浸水想定区域に該当する為、毎年定期的に避難訓練を実施している。

保護者による評価

A環境面

- ・送迎時しか会わないので、詳しくわからない。
- ・微妙です
- ・普段の様子を見学したことがないので。
- ・先生の異動時期をもう少しゆっくりして欲しい。

B児童への支援内容

- ・スポーツと音楽のアピールが想像より少ない
- ・いろいろな場所に外出があるのでとても良い。室内のイベントをもう少し工夫がほしい。

C事業所からの情報発信

- ・外出時に接触がある程度と認識。支援の内容については説明があるが。

D非常対応

- ・保護者同士の連携についてはなくても問題ないと思います。
- ・苦情があるのかわかりません。あるとは思えません。

事業所内での分析

【共通点】

室内イベントが似通ってしまう。
外出が多い事。

【相違点】

支援の相談は説明されれば解答している。

個別支援計画書面談時以外でも、保護者からの折りいった話の相談を受けられ、児童発達支援管理責任者が中心となり回答している。

分析・検討してみて…

事業所の強み

- ・保護者からの要望に対し、適宜文書で報告し改善策を講じて説明をしている。
- ・外出プログラムが充実している。
- ・近隣に公園や駄菓子屋があり、外遊びや買い物学習がしやすい。

事業所の改善点

- ・事業所の特色などを積極的に発信するアピールが弱い。療育や支援方法を保護者にわかりやすく出していく必要がある。
- ・室内プログラムの活動内容が似ており、工夫が必要。

事業所の改善への取り組み

- ・施設での特色や療育内容の発信について。
JOY KIDS の HP にて、活動報告のブログを挙げているが、どのような目的があり、活動を行っているかを明記し、事業所の特色を文書でさらにアピールしていく。
また、送迎の保護者説明の際に、活動を行った上で、利用児童がどのように過ごしていたのかを説明し、その上で今後どのように支援していくかの詳細を報告していく。
- ・新年度に際し、職員の異動等も発生した為、職員の特技を活かし、室内プログラム内容を拡大していく。

～自己評価を行っての事業所としての感想など～

施設的环境や職員体制を鑑みて、室内外の活動プログラムの一新が必要と感じた。スケジュールは一定にしつつも、利用児童が毎日通っても飽きさせず、成長の一助になるような活動プログラムを早急に検討していく事が求められる。